

ハザードマップを活用し あなたの行動を確認しよう

大雨による災害リスクが高まると区は、避難情報を発令します。避難情報とは、住民への避難の促しや、災害発生時の対応を示すものです。区HPなどで警戒レベルを確認して、自分の状況に合った行動をとりましょう。

／ 知っておくべき / 避難の5つのポイント

1 避難とは「難」を「避」けること

安全な場所にいる人まで避難所に行く必要はありません。

2 親戚や知人宅も避難先

避難所は、プライバシーが確保されにくく、寝具やトイレなども数に限りがあります。日頃から親戚などとコミュニケーションを図りましょう。

3 非常用持ち出し品 (2ページ参照) の持参を

避難する際は、感染症対策用品や携帯食料などを携行しましょう。

4 避難所の最新情報を確認

避難所が変更されている場合があります。



▲区HP

5 車での移動は大変危険

やむを得ず車での移動や車中泊をする場合は、浸水しないよう周囲の状況を十分に確認しましょう。



ハザードマップで自分の家を確認

1 中野区ハザードマップ

浸水予想区域や土砂災害に警戒が必要な区域の他、日頃の備えなどを確認できます。いざという時に命を守る行動がとれるよう、水害時の避難所や避難経路などを確認しましょう。☆区役所1階総合案内などで配布中。区HPでもご覧になれます



▲区HP



家がある場所に色が塗られている



▲イメージ

はい ↓

災害の危険があるので原則、立ち退き避難しましょう



ご自身や一緒に避難をする方の避難に時間が掛かる



はい ↓

いいえ ↓

マイ・タイムラインも活用を

マイ・タイムラインとは、風水害時の避難行動を事前に計画し、家族や地域で共有するためのものです。詳しくは、都HPをご覧ください。



▲都HP



色が塗られていなくても、次の場合は要注意

- ・ 周りと比べて土地が低い
- ・ 近くに傾斜地がある



☆危険を感じたら、外や建物の2階以上に避難しましょう

浸水の危険があっても、次の3つの条件を満たしていれば自宅に留まり安全を確保することも可能です

- ① 洪水により家屋が倒壊または崩落してしまう恐れの高い区域の外側である
- ② マンション等頑丈な建物で、浸水する深さよりも高いところにいる
- ③ 水・食料などの備えが十分にあり、浸水しても水が引くまで生活できる

